

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和8年5月21日）

1 主な報告等

(1) 「警察本部支援隊（ゆいまーる隊）」の運用状況について

警察本部から「令和7年10月から警察署を支援するために警察本部支援隊（ゆいまーる隊）を運用している。支援の対象は、重要事件の発生時や多数の雑踏等が予想される行事等であり、警察本部から指定された職員を派遣している。要請受理は30件で、派遣内容としては、「那覇署・沖縄署におけるハロウィーンやペイデイ後の在日米軍憲兵隊との合同パトロール時におけるトラブル等への対処」「浦添署管内における歓楽街総合対策」「第40回全日本トライアスロン宮古島大会への支援隊員派遣」である。」旨説明があった。

公安委員から「半年で30件の要請派遣があったということは、かなり需要が高い良い企画だなと思う。今後、働き方改革を進めていく中で、人的資源の流動化を進めていくべきである。」旨発言があった。

(2) 人事異動期における児童虐待防止対策の取組について

警察本部から「人事異動期における児童虐待防止対策として、警察本部少年課長が講師として4月15日から各警察署をまわり、児童虐待対策実践塾を実施している。児童虐待は、「身体的虐待」「性的虐待」「ネグレクト」「心理的虐待」の4類型に分けられ年々増加傾向にある。特に「心理的虐待」が増加しており、DV事案や恋愛感情等のもつれに起因する暴力的事案があった場合に、それが子供の面前で行われた場合は、子供が心理的虐待を受けたということになり、年々その「心理的虐待」が増加しているのが実態である。実践塾の中では、過去の実例をもとにロールプレイング方式の検討会を行った。また、虐待事例の法医学的診方にかかる研修会を5月11日に開催し、警察職員、児童相談所職員の合計146名が参加した。研修会は応答方式で行われ、損傷の診方等についての教養がされた。」旨説明があった。

公安委員会から「沖縄におけるDV事案は全国と比べ多いのか。」旨発言があり、警察本部から「全国でも上位にあり、面前DVは多いように感じる。大きな事案には至っていないが、今後もしっかりと対応していく。」旨説明があった。

公安委員から「全国公安委員会連絡会議でも以前DV事案が議題となった。同事案は様々な機関と連携が必要であり、連携していかないと解決しないと思うが、当県は警察、学校、児相が連携し、しっかり対応しているように感じる。」旨発言があった。

(3) 有印私文書偽造・同行使、詐欺事件被疑者の検挙について

警察本部から「令和7年2月25日及び同年3月26日に宮古島市の金融機関で、現金合計1200万円が被害にあう有印紙文書偽造・同行使、詐欺事件が発生し、宮古島市に居住する44歳女性を通常逮捕した。」旨説明があった。

公安委員から「本件のような事案はたくさんあり、介護施設等では、家族が金銭管理していることも多いが、管理している家族がお金を使い果たしてしまったとい

う事案もあり、なかなか顕在化しないものも多い。金銭管理への注意喚起は警察が行うと効果があると思う。」旨発言があり、警察本部から「同種事案を発生させないことが必要であり、関係機関と連携して対応していきたい。」旨説明があった。

(4) 5.15平和行進及び県民大会に伴う警備実施結果について

警察本部から「5月15日に那覇市内で約760人が参加する全国団結式が開催された。5月16日には5.15平和行進として約2000人が嘉手納基地コースと普天間基地コースに分かれデモ行進を行った。政治団体と平和行進団間のトラブル及び違法行為防止のため、所用の警備措置を実施した。」旨説明があった。

公安委員から「これまで平和行進時にトラブルが発生したことはあるのか。」旨発言があり、警察本部から「平和行進団と政治団体の間で暴行等トラブルが発生したことがある。両者を接触させないような対応をとっている。」旨説明があった。

(5) その他

警察本部から「6月の沖縄全戦没者追悼式は要人警護の対応も入ってくることから、より気を引き締めて対応していきたい。」旨説明があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 裁決書の裁決について
- ・ 広報相談課関係報告
- ・ 令和8年度沖縄県留置施設視察委員会委員の選定について
- ・ 令和8年度留置施設の実地監査計画の策定について

(2) 刑事部

- ・ 事件関係報告
- ・ 公安委員会宛て苦情の調査結果について

(3) 地域部

- ・ 海域レジャー適正化事業実施機関の指定のための公募について

(4) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について

(5) 警備部

- ・ 警察職員等の援助要求について（3件）